

う に 郷 通 信

No.101
平成 29 年(2017) 11 月

発行： 宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

第 10 回「コスモスまつり」中止について

10月21日(土)午前9時、ふれあい館にて「緊急実行委員会」を開き、台風21号接近のため第10回コスモスまつりの中止を断腸の思いで決断しました。

猛暑の7~8月、「コスモス畑」「コスモス街道」作りを6町の役員さんら約200人と、子供会70人余りの方々の参加で実施しました。雨天の多い今秋でしたが、丹精を込めて育てていただいたおかげで、まつりに向けて約2.7ヘクタールの畑と、延べ16キロの街道に、美しく成長したコスモスの花が咲きました。まつり当日の企画については、スポーツクラブ21のメンバーによるウォーキングに加えて、近大生参加や兵庫教育大学生20人が「スペースシャトルであそぼうコーナー」を設けたり、恒例の歴史講演会や賞品多数の抽選会、宇仁小学校児童による宇仁っ子ふるさとガイド隊による名所案内も企画していましたので、中止は残念の一言につきます。しかし人口増対策や地域活性化のために「継続的に取り組んでいる地域力」は、まつり撤収作業の各自治会の対応にも見られました。「継続は力なり」を実感したおさめ作業の組織力でした。末尾になりますが、コスモスまつりの為に、多用中献身的に運営に協力して頂きましたボランティアの皆様方に、心より感謝と御礼と、同時に中止のお詫びを申し上げます。

(花畑街道部会)



八王子神社の秋祭り



10月8日(日)恒例の八王子神社秋祭りが開催されました。今年は八王子神社創建980年の年にあたります。当神社は長暦元年(1037年)今の滋賀県日吉大社より八王子大神を勧請して祀り、五穀豊穰、安産守護の神として崇敬されています。

午前中神社本殿において酌取り神事や浦安の舞奉納、11時から猿田彦先導の渡御出立ち式、御旅所においての酌取り神事が行われ、12時に還御して昼食休憩となりました。昼食は各町ごとに集まり、3世代ふれあいの場として活用している町もあり、有意義な時間を過ごしていました。午後は幼児園児や小学生による賑わい行事等と引継ぎ神事、午後3時から餅まきをして終了となりました。

八王子神社の秋祭りは酌神事と神輿練り歩きとの2つの儀式により五穀豊穰をよろこぶお祭りとなっています。この聞きなれない酌神事とは、八王子神社の祭神(男の神)と妙見社の祭神(女の神)との婚礼を取り持つ神事のこと、物を生み出す実りの秋の神事として、八王子神社と御旅所で三三九度の杯が交わされます。神社の由緒を知って祭の儀式を見学すると興味が増してきますね。

(秋祭り参加者A)

「こころ豊かな 500 人委員北播磨」の 15 期生が来ました!!

10 月 21 日(土)の午後、超大型台風 21 号の前触れの雨の中、こころ豊かな 500 人委員北播磨の 15 期生 10 人が県民局交流部の担当者 2 人と共に宇仁郷にやって来ました。こころ豊かな 500 人委員は「こころ豊かな美しい兵庫」の実現に向けて次代を担う青少年の育成活動を中心に、魅力ある地域づくり活動の担い手を育成するグループです。今回 15 期生にとっては初めての研修会だったようです。協議会から会長、副会長、情報部会長の 3 人が出席して対応しました。

宇仁郷まちづくり協議会の活動内容を知りたいということでしたので、各部会の活動状況をパワーポイントで説明し、また、学童保育と宇仁っ子ふるさとガイド隊についてはビデオで詳しく紹介しました。

質疑の中で、「宇仁郷通信」が毎月発行で 100 号まで続けているのに感心し、記事の収集はどのようにしているのかとの質問もありました。また、どの部会が一番忙しいのかとの質問に対し、まずは朝市部会、ふれあい交流広場部会、花畑街道部会などですが、他の部会も活発に活動して頑張っていると答えました。

宇仁郷歴史資料館を見学したいとの要望がありましたので急きょ開館し、来訪者たちは熱心に展示パネルに見入っていました。(事務局)



秋祭りにて宇仁っ子頑張る

午後の部セレモニーの始まりに、宇仁幼稚園の 5 歳児が竹太鼓の演奏と踊りを披露してくれました。揃いのハッピーと頭にねじり鉢巻きをして、緊張の面持ちで勢揃い **カワイイ**！ところがビックリ！演奏を始めると **キリッ**！それぞれが自分の演奏や踊りに一生懸命に出来ていました。決めるところも **キリッ**！上手に出来ました。ありがとうね。でも皆さん **大変** です。宇仁幼稚園が無くなるとこの演奏が見られなくなるんですよ。 **淋しいですね**。

次に宇仁ふれあい太鼓の演奏です。小学生中心の演奏です。見て下さいこの晴れ姿。今では大人顔負けの演奏に皆、自信満々の顔と顔。随分とうまくなり、はつらつ委員会の三世代交流にも活躍します。最後に大人との祭り太鼓で締めてくれました。(秋祭り参加者B)



宇仁郷歴史資料館だより ③-18 近世の宇仁郷

(18) 水紛争の勃発

幕府の命により開削された 14 キロの水路(任せ溝 8 キロ、天下溝 6 キロ)は高岡村が水利権を持つ青野原北部新田への専用水路である。馬渡谷、大工、鍛冶屋、青野、都染、野上村に取水口はなく、各村々の水田に水を供給できない構造になっている。日照りが続き各村のため池が渇水しても任せ溝と天下溝から給水が受けられず、天災のたびに深刻な水争いが起こり、幕府が調停に乗り出している。特に東西に走る天下溝で村が分断されている都染・青野村と高岡村との水争いは翹屋ダムが完成するまで約 300 年続くことになる。

幕府は紛争を回避するため、天下溝が完成した翌年の享保 10 年(1725)沿線の村々より普譜奉行に青野原北部新田への用水の妨げをしないことの誓約書を提出させているが、文化 6 年(1809)青野原北部新田の当時の願主藤五郎・喜市郎が都染村の平松を通過している天下溝の不当な使用について大坂の谷町代官所に訴えを起こし、文化 11 年(1814)調停が成立し現在の平松の分水路が認められた。



平松の分水路(手前は天下溝)